in Kawasaki

先端AI技術を素早く試せる新たなAIプラットフォーム

「Fujitsu Kozuchi(code name) - Fujitsu AI Platform」のご紹介

AIの実践、活用を具体的に検討し、自社での課題解決につなげたいとお考えの会員企業の皆様と、富士通研究所の開発者とで意見交換会を行いました。

開催概要

テクノロジーフォーラム
～AI・生成AI最新技術動向と富士通AIプラットフォームの適用事例～

富士通では、AIイノベーションコンポーネントおよび、AIコアエンジンを2023年4月からグローバルに公開。今回は「Fujitsu Kozuchi (code name) - Fujitsu AI Platform」および「AI・生成AIの最新技術動向」のご紹介に加え、富士通研究所の最新技術の展示見学、富士通研究所の開発者と意見交換をしていただけるセミナーを開催しました。

主　　催：FUJITSUファミリ会 事務局
開催日時：12月4日(月) 13:30～18:00

- 13:30～14:30 テクノロジーホール展示見学
- 14:40～15:40 講演
  「Fujitsu Kozuchi (code name) - Fujitsu AI Platform」の紹介
  -AI・生成AIの最新技術動向と適用事例紹介-
  講師／富士通(株) 技術戦略本部SME推進統括部
  シニアディレクター　松本 安英
- 15:40～15:50 「ハルシネーション検知の話をはじめKozuchi化されたトラスト技術の紹介」
  講師／AIトラスト研究センター
  シニアリサーチマネージャー　毛利 隆夫 氏
- 16:00～17:00 意見交換会
  参加者と富士通研究所・事業部門との意見交換

開催場所：富士通株式会社 川崎工場
参加人数：18名／オンライン参加は158名（講演のみライブ配信）
対　　象：AIを活用して自社課題を早期に解決したいと検討中の方、経営層、部長層、課長リーダー層

Fujitsu Technology Hall見学会

まずは、全国から集まった会員企業の皆様に、富士通が将来を見据えて開発してきた多くの技術、人々に愛され続けている製品、脈々と受け継がれてきたお客様起点の発想から生み出した挑戦の歴史をご案内すべく、見学会からスタートしました。

History Zoneでは、80年以上に及ぶ歴史の一部をご紹介。主に製品開発の研究や設計の数値計算に活用されていた1960年製造の中型の科学技術計算用リレー式計算機「FACOM138A」を実際に動かし、8桁までの円周率を印字する工程をご覧いただきました。

続くPresentation Zoneでは、富岳や量子コンピューティングなど社会課題の解決に貢献するコンピューティングテクノロジーをご紹介。最後のNow & Future Zoneでは、社会の発展に貢献していく様々な分野の最新技術をご紹介しました。行動分析技術「Actlyzer」のデモでは、実際にカメラを通したご自身の「しゃがむ」「歩きスマホをする」などの行動や「怒る・泣く」などの表情検知を体感いただきました。

意見交換会

AI・生成AIの最新技術動向と業務適用事例講演／「ハルシネーション検知の話をはじめKozuchi化されたトラスト技術の介」の講演後、2グループに分かれて意見交換会を実施。各グループには、講師の松本、毛利も参加し、各社での取り組みや困りごとなどについてディスカッションしました。各社の状況が共有でき、連帯感に満ちた穏やかな時間となりました。

アンケート

Q 富士通AIについて

- 利用側からするとユースケースによって利用最適な製品を割り振っていただけると凄く良いと思う。
- Kozuchiについては「どういう技術で、どれだけのものを今学習されてますよ」というようなアピールがもっとほしい。
- カスタマイズ可能であればKozuchiを利用してみたい。

Q 生成AIのビジネス活用について

- FAQなどの新しいサービスにAIを活用したり、クラウドサービスにAIを活用できないか検討している。
- 社内で学習したデータを使って回答を導きだしているが、検索の精度が悪い。どういった仕組みが良いのか検討をしている。「Kozuchi」で解決できるのか試してみたいと思っている。
- 音声認識のAIに興味がある。議事録の書き起こしや製品の異音チェックで使えないかと思っている。
- 電話でご予約を受けているが、今後はWebで予約できる仕組みを検討していこうと考えている。コールセンターの事例は深掘りして聞いてみたい。

in Osaka/Hiroshima

2023年度も活動方針に沿ったイベントが続々登場！

集合型ワークショップ「情報交換会」&交流イベント

様々な悩みについて他企業・他団体と直接話し合うことによって、課題解決の糸口を見つけたり、意見交換を重ねることで会社や階層、業務の枠を超えた永続的な関係を広げたりすることが狙いです。

関西支部 情報交換会「セキュリティ」

社内のセキュリティ推進に携わっている24名の会員が参加。まず、富士通(株)松本 国一が、「デジタル時代に必要不可欠なサイバーセキュリティ」と題して講演を行いました。

講演概要

世界中でデジタル化が進み、生活が豊かになっています。例えばインドでは100都市のスマートシティ化が完了し、ベトナムでは2025年までに行政手続きすべてをオンライン化する計画です。

2021年にパンデミックの中で開催された東京オリンピックでは新型感染症の感染爆発が心配されていましたが、幸い大きな問題に至りませんでした。一方で、大会期間中のサイバー攻撃は4億5,000万回と非常に多く発生していました。最近ではロシアの放送局をハッカーがジャックするなど、サイバー攻撃は戦争の道具になりつつあります。

日本でも、大量の個人情報や国防などの重要な機密情報が流出したり、ランサムウェアが問題になったりと、サイバー攻撃の規模は年々拡大しています。こういった被害にあうと、流出した個人情報が悪用されるほか、ランサムウェアでプログラムが圧縮され工場の生産が停止になるなど不測の事態が発生します。データの修復には時間も手間もかかり、社会的信用の失墜にもつながり、今後の取引に影響が出ることもあります。

リアルな世界に置き換えて考えてみると、ファイヤーウォールなどで入り込めないようにするのは、家の戸締まりと同じように考えられます。ネットワークなどの振る舞い検知システムは、リアルの世界の監視カメラと似ています。セキュリティ対策に絶対はありません。随時対策を取りつつ、社員一人ひとりが「知らない圧縮ファイルができている」「コンピューターの動作が遅い」といった異変に早く気付けるようになれば、大きな被害になるのを食い止めることができるでしょう。さらにバックアップも非常に重要です。ただし感染したファイルをバックアップしないように、期間などには注意が必要です。難しく考えず、本格的な対策はぜひ専門家にご相談ください。

共通の課題についてのディスカッション

グループワークでは、松本から「セキュリティに関しては、事例紹介が難しく、他社の取り組みはわかりにくいものです。今日は『ここだけの話』として、できるだけ忌憚のないお話をいただければと思います」とアドバイスがありました。事前アンケートをもとに、関心の高いテーマ別に分かれてディスカッションをスタート。各グループには事務局からファシリテーターが1人ずつ入り、ホワイトボードを使いながら話し合いました。

Aチーム：エンドポイントセキュリティ／［社員教育］［シャドウIT］
Bチーム：イントラセキュリティ／［内製化］［外注］
Cチーム：未知の攻撃に対するセキュリティ／［社員教育］［情報収集/アップデート］

［社員教育］は、いずれのチームでも関心が高く、様々な観点から話題が出ました。例えば、「社員研修後に疑似メールを送って行われたメール訓練で、開封率が非常に高かった」というお悩みもあれば、「情報システム部門の教育に悩んでいる。SOC（Security Operation Center）と対等に話をするにはどうすれば？」といった課題も語られました。

1つのトピックについて10分話し合う予定が盛り上がり、各20分に延長。時折、大きな笑い声の起こるグループもあり、楽しく情報交換が行われました。

各グループで話し合った内容が共有され、教育に関しては外部機関のトレーニング研修、資格取得、eラー

ニングなどが挙げられましたが、IT企業とそれ以外の企業では事情が違うことも浮き彫りになりました。[シャドウIT] は、CASB (Cloud Access Security Broker) 導入を検討されている企業もあり、OSなどのアップデートに関しては、CVSS (Common Vulnerability Scoring System: セキュリティ脆弱性の重大度を表す指標) スコアを参考にして対応時期などを決める、外部に接している機器を重点的に対策するといった運用例も紹介されました。また、セキュリティの予算を「売り上げに対して何パーセント」と決めている企業の例も紹介いただき、貴重な情報交換の場となりました。

交流が深まった意見交換会と交流会

最後に、全体での意見交換会を行いました。例えば、「デバイスの管理はツールでできるが、使用者との紐付けや状態の管理まではできず、表計算ソフトを使っていて非効率」という多くの参加者が持つお悩みに対し、ノーコードツールを使って管理されている企業からのアドバイスがありました。

また、夜間や週末のEDR (Endpoint Detection and Response) 検知への対応では、各社が様々な運用方法を紹介。取引企業との間のセキュリティ・チェック・シートは、年々項目が増えており負担になっているようです。ISMS (Information Security Management System) の認証を受けることを検討している企業もありました。2名で参加してくださった企業からは、同じ事象に対して、現場担当者と管理者の両方の立場から課題を共有いただき、大変参考になりました。

2022年11月の第1回 (人財育成) から始まり、第2回 (働き方改革)、第3回 (DX)、第4回 (AI／ChatGTP)、と開催して来て今回は5回目となる情報交換会でした。会員の皆様から希望のあった旬なテーマを取り上げて開催しており、参加人数も増えております。皆様にとって、今後の業務に役に立つ情報交換会になったならば幸いです。

皆様のお困りごと解決のヒントゲット、横のつながり作りの場として情報交換会をご利用くださいましたら幸甚です。

タキイ種苗株式会社
情報システム部
部長　松尾 大成 氏

アンケート

業種によって様々なセキュリティ管理の手法があり、「その手があったか」というところが多々ありました。セキュリティというなかなか他社と会話するにはシビアなテーマではありましたが、いろいろな取り組みが聞けて良かったです。

各社さん、同じような課題があるようでしたが、その中でも自社より進んだ取り組みをされていたり、これから取り組もうとされている内容は非常に参考になりました。

どの企業もそうですが、いくら念入りにセキュリティを設定しても、抜け道がある中で、日々の模擬課題を徹底してやっていくことで、各社員のセキュリティに対する意識が向上していくものだと感じました。

普段聞けない意見を聞けました。不安な点を相談すれば、同じ目線での同意やほかの意見を聞くことができたので今後の参考にできそうです。

セキュリティに関してはEDRを導入している会社が思っていたよりも多かった。弊社でも社内でセキュリティ強化の議論を進めやすくなったと思う。

今回初めて参加させていただきましたが、他社との交流を深め互いに不足している部分を共有し合うという部分に関しては、物凄く良いと思いました。

中国地区ビジネスパワーサミット

目的 地域の会員相互のつながり醸成への人的ネットワークづくりと、会員企業経営層の課題共有・課題解決に向けた意見交換

プログラム

第1回	第2回	第3回
情報交換 課題発見	課題共有 意見交換	今後の アクションまとめ
集合形式	オンライン	集合形式

山陰地区若手交流企画 イノベーション・ミーティング

中国支部 交流イベント

① 経営者ラウンドテーブル「中国地区ビジネスパワーサミット」

「地域の会員相互のつながりを醸成し人的ネットワークを作ること」と、「会員経営層の課題共有・課題解決に向けた意見交換」を目的として企画。初めての試みとなる今回は、松本支部長［(株) サタケ 代表取締役社長］にテーブルオーナーを担当いただき実施しました。広島地区で、同じメンバー数名で3回の交流会を行います。5つの選択肢から関心の高いテーマを選定いただき、ディスカッションのテーマが「人財確保と育成」、「DXの推進」、「技術力・開発力強化」に確定しました。

一般社団法人日本デジタルトランスフォーメーション推進協会代表理事の森戸裕一氏の進行で、1回目は集合形式で「ありたい姿」を描き、情報交換を行いました。2回目はオンラインで、テーマに沿って課題共有などのディスカッションを行いました。3回目は集合形式で2月に開催し、課題解決に向けた今後のアクションをまとめる予定です。

中国支部では来年度以降、このサミットで検討した課題を実務者レベルのナレッジ交換など、コミュニティ活動として継続することを検討しています。

② 山陰地区若手交流企画「イノベーション・ミーティング」

山陰地区若手を対象とし、地域での人的ネットワーク作りに加え「能動的参加によるビジネスを推進する人財の育成支援」を目的とした「イノベーション・ミーティング」。「地域の課題解決」をテーマに自分の仕事を通して、社会貢献、地域課題を考えていただく交流企画を実施しました。

ミーティングオーナーである吉田幹事［山陰信販（株）取締役］より山陰地区の人口や経済動向などのお話に続き、富士通の松本シニアエバンジェリストを講師として全3回で開催しました。2回目までのディスカッションで、多くのアイデアからテーマを絞り込み、3回目のミーティングではさらに深掘りすることができました。最終ゴールを「就職による人の移動で人口の流入100%以上を目指す」に設定し、アイデア具現化のためのステップと実施プランを検討しました。

今後、コミュニティの継続やファミリ会でのプラン検討を含め、来年度以降の中国支部の企画へ活かしていければと思います。

アンケート

「山陰地区若手交流企画」ご参加者様より

講義を受けるだけのセミナーとは違い、ワークショップでアウトプットの機会があったのは参加者が主体的になれるので良かった。

他社の方と交流する行事に参加したのは初めてで新鮮でした。最終日の意見を交換し合うワークショップは少し難易度が高く感じましたが、自分では思いつかない意見も取り入れることができて有意義でした。

若手社員が小さく始めるのはもちろん重要だが、会社全体としての大きな変革をしたい場合、DXはトップダウンでスピード感を持って進める必要があると感じる。トップ層にシニアエバンジェリストの松本さんの話を聞いてほしい。

講師の話が非常に勉強になり、懇親会含めカジュアルな雰囲気でいろいろな方と話をすることができた。

松本講師の複雑な物事をかみ砕いてわかりやすく説明するスキルは、IT営業で働く自分にとっても必須であると感じました。

説明がとてもわかりやすく、DXについてより理解を深められた。

違ったテーマでの研修会にも参加してみたいと思いました。

～FUJITSUファミリ会四国支部「神山まるごと高専見学会」～

人材育成や地域コミュニティについて考え、一歩踏み出すきっかけに

in Tokushima

見学会概要

開催日時

10月24日(火)9:00～17:00

スケジュール

9:00	JR徳島駅前集合
9:10～10:00	移動 (JR徳島駅→神山まるごと高専) ※移動はすべて貸切バス
10:00～11:00	神山まるごと高専校舎見学
11:00～12:00	講演 神山まるごと高専事務局長 松坂 孝紀 氏
12:00～13:00	移動、昼食
13:00～14:30	講演 (株)エンジン代表取締役 エグゼクティブ・コーチ 竹内 和啓 氏
14:40～16:00	ワークショップ
16:10～17:00	移動 (神山まるごと高専→JR徳島駅)
17:00	JR徳島駅前解散

徳島駅から南西へ25キロほどの自然豊かな山の中に、2023年4月、高等専門学校（高専）が開校しました。「神山まるごと高専」と名付けられたこの高専は、名西郡神山町に位置し、民間の学校法人が運営する全寮制の学校です。大変特色のあるこの高専へ、ファミリ会四国支部の20余名が視察に行きました。

神山杉をふんだんに使った、木の香りに包まれた校舎

車中で神山まるごと高専についての説明を聞きながら、バスで移動すること約40分。自然豊かな山々に囲まれた神山町に、同校の「ホーム」と呼ばれる寮・事務棟があります。移転した神山町立神山中学校の校舎を譲り受けたもので、一歩足を踏み入れると木の香りに包まれます。林業が盛んな地域ですが、間伐が追いつかないのが課題とのことで、校舎やテーブルなどに神山町特産の木材がふんだんに使われています。

スタッフの丸山氏の案内で、ホームを見学させていただきました。リノベーションされたバリアフリー対応の真新しい寮ですが、ところどころ中学校の校舎の面影が残っています。現在は1年生44名(男子22名、女子22名)がこのホームで生活しています。2人部屋でもシングルベッドが2台ある広く明るい設計です。6人で1ユニットを形成し、将来は他学年と一緒に共同生活を行う予定とのことでした。生徒が3食利用する食堂は、「地産地消」を掲げ、地元で採れた野菜を中心としたメニュー。大変おいしいのが自慢だそうです。

ホームから鮎喰川という清流を渡り、5分ほど歩くと「オフィス」と呼ばれる校舎に着きます。棚田だった地形を活かした平屋の校舎には、神山町特産の神山杉約3,000本が使われているとのこと。ガラス張りの明るいオフィスの中には、講義室、ラボ、演習室、研究室などの設備があります。

「ここは小さな社会。あなたは大人」の教育

見学の後、講義室で同校事務局長の松坂孝紀氏のお話を伺いました。この学校は、起業家たちが「学校で

こんなことを習いたかった」と思うことを学べる学校を目指して設立したそうです。育てる生徒像は「モノをつくる力で、コトを起こす人」。この学校は、デザイン・エンジニアリング学科1学科の高専ですが、テクノロジーとデザインを、起業家精神や一般教養を組み合わせて、教科にとらわれず学際的に何でも学ぶ学校です。これが学校名の「まるごと」の由来になっています。例えば前期の体育の授業では、全員がスマートウォッチを付け、健康管理について学びました。

松坂氏は観衆に、「皆さんが学校時代を振り返って、一番自分自身が成長できたのはどんな時ですか」と問い、「こう質問すると多くの人が、部活や行事など、授業以外のことを挙げます。これが、私たちが『カルチャー』を大切にする理由です」と続けました。授業だけでなく、寮での生活、課外活動などのカルチャーをしっかり設計することを重要視したそうです。神山町は人口5,000人に満たない過疎の町ですが、特色ある事業に取り組んでいる非常にユニークな町で、「この町だからこそ、高専のカルチャーが育まれる」と力強く語られました。設立発表は見切り発車で、文部科学省への申請には苦労されたそうですが、昨年、日本で19年ぶりに高専の設立が認可されました。

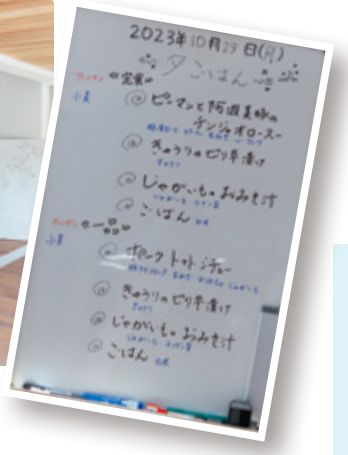
設立にあたっては、ふるさと納税、企業版ふるさと納税で多くの寄付があったほか、11社の民間企業（スカラーシップパートナー）から1社10億円の出資を受け、110億円規模の奨学生基金を創設しました。富士通もその1社です。基金の運用益により、民間の学校でありながら本来年間200万円かかる学費の実質無償化を実現しています。「家庭の経済状況に左右されず、世界を変える可能性を秘めた子供たちの誰もが目指せる学校にしたい」という思いから、入学金や寮費についても、世帯年収に応じて補助があります。今年度の入試では40都道府県、海外からも受験があり、倍率は9倍を超えました。

神山まるごと高専には校則はなく、服装も髪型も自由です。その代わり「ここは小さな社会。あなたは大人」という言葉をよく使い、15～16歳の生徒を大人として扱っているそうです。生徒がやりたいことに対しアドバイスをするのみで、「失敗させるのもいい経験になる」という方針から、応援し見守る姿勢を徹底しています。最後に、同校の掲げるβ Mentality（ベータ・メンタリティ）について、「ソフトウェアのテスト版のように、最初から欠点のない完成形を求めるのではなく、未完成のベータ版を次から次へと作りだし、検証して良くしていくことをビジョンにしています」と、神山まるごと高専に関しても、今後もアップデートしていく姿勢を強調されました。

「創造的過疎」で町に活気を取り戻す

その後、神山バレー・サテライト・コンプレックスへ移動。ここは縫製工場を改修したサテライトオフィスで、企業、大学、個人が契約し、定期、不定期にオフィスとして利用できるスペースです。昼食後に、株式会社エンジン 代表取締役の竹内和啓（かずひろ）氏から、神山まるごと高専と神山町のこれまでの歩みをご紹介いただきました。

神山町は、消滅可能性都市ランキングにランクインしたことがあるほど過疎化が進んだ町です。しかし神山町では過疎化の現状を受け入れ、絶対数ではなく人口構成比の健全化などを改善する「創造的過疎」を掲げています。発端は1991年の「青い目の人形」の米国への里帰りでした 。これを1つのきっかけに、神山町国際交流協会が立ち上がり、ALT（小中学校の語学指導助手）制度で徳島県へ派遣される外国人向けに、神山町でホームステイを行う事業を始めました。1999年からは「アーティスト・イン・レジデンス」として、国内外のアーティストが神山町に長期間滞在しながら制作活動を行い、作品を残していってもらうプログラムもスタート。現在ではクリエイターやシェフなどの移住者も増え、商店街にも活気が戻ってきています。また神山まるごと高専が開校



し、全学年が揃う5年後には15歳から20歳の若い住民が200人増える見込みです。

徳島県では地デジ化の際、光ファイバー網を整備したため、スマホが普及する前の2005年頃から高速回線が引かれ、神山町には企業のサテライトオフィスも点在しています。2016年には、「地方創生×働き方改革に先鞭を付けたモデル」として神山町がForbes Japanが選ぶイノベーティブシティの2位に選出されました。

竹内氏は、「始まりは『外国から日本へ人形を送る』という100年前の小さな行動です。このように小さな1歩が大きな成果につながることがあります。『すき』な場所に『て』を入れて、『すてき』な場所にしてみませんか」と締め括りました。

「すてき」にするために、やりたいことを「やったらええんちゃうん?」

ワークショップは、講師の本重真由美氏の進行で自己紹介からスタート。4人ずつのグループに分かれ、グループ内で今日感じたことを話すうち、笑顔も見えてきました。発表された感想の中には「やってみることが大事」「大きな失敗を避けるためにも小さな失敗を恐れない」といった意見がありました。

その後はA3の紙に絵を描きます。本重氏は「神山で感じたことを自分ごととして捉え、『て』を加えて『すてき』にするには何をすればいいか、絵にしてみましょう。絵心は気にせず、自分の頭の中を描きだして、他の人とシェアしましょう」と説明。最初は白い紙を前に戸惑っていた参加者もいましたが、カラフルな絵があちこちで描かれました。その後のグループ内発表の際には、皆さんキラキラとした明るい表情で話していたのが印象的でした。数名は全員に対して発表し、参加者全員から「やったらええんちゃうん?」と声を掛けられ勇気をもらったようでした。

秋の晴天の中、見学や講演、ワークショップと充実した視察会になりました。また参加者同士、名刺交換をしたり情報交換をしたりする姿も見られ、親交を深めることもできたのではないでしょうか。ファミリ会では今後も様々な研修や見学会を企画する予定ですので、ぜひ皆様奮ってご参加ください。

アンケート

以前より興味があったところなので、絶対に参加しようと思っていた。内容も高専のほか神山バレー・サテライト・コンプレックスでのワークショップも体験でき非常に充実した内容でした。

従来の学校教育とは異なる形を知ることができる。神山まるごと高専や、神山町活性化に係るエピソードや経験談を聞くことにより、人材育成教育に活用できる。

神山町での高専設立までの流れ、そして、地域活性化など、とても参考になった。新しいことを興す際の心構えやスタンスを知ることができた。

神山町と民間企業の取り組みについて、新規ビジネスのヒント、取り組みに携わってきた方々のマインドなど、参考になる点を多く感じた。

神山まるごと高専見学会はかなりおもしろかった。とても刺激になった。また、午後の研修も様々な業種の方と意見交換でき、おもしろかった。

▶セミナー申し込みはFAMILY ONLINE マイページから https://jp.fujitsu.com/family/